第２章

G30 for everyone 他　英語環境

三小田　博　昭

（１）研究の背景

平成16年に名古屋大学が国立法人となったのを契機に、名古屋大学総長を中心とする大学執行部体制が重要な役割を担うようになった。当然ながら附属学校も大学の意志決定のもと大学法人附属の学校として運営がなされるようになった。名古屋大学の理念である「勇気ある知識人」や濱口道成名古屋大学第13代総長の時のスローガン「名古屋大学からNagoya Universityへ」という方針を本校に組み入れた。濱口道成前名古屋大学総長の時に、名古屋大学が附属学校に課しているミッションの１つに「附属学校の国際化」がある。具体的には、「附属学校の充実」として①教育学部附属学校協議会によるマネジメントの強化②中高大連携による教育の充実③海外高校生受入体制の構築と整備である。これは名古屋大学のホームページで常に見ることができる（http：//www.nagoya-u.ac.jp/2012website/about-nu/images/hamaguchi_plan/ver2013.pdf）。これを契機に、本校には海外から非常に多くの高校生や研究者が訪問することとなった。

23年度 67名	24年度 108名	25年度 231名	26年度 165名
アメリカ・タイ・モンゴル・インド等	アメリカ・インドネシア・タイ・シンガポール・ベトナム等	アメリカ・インドネシア・タイ・シンガポール・オーストラリア等	モンゴル・アメリカ・韓国・インドネシア・ホンジュラス・ミャンマー等

また、「名古屋大学からNagoya Universityへ」というスローガンをもとに、本校は国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究（H24～H26）に取り組み、中等教育でのIBDPの充実と大学への接続問題について研究と提言を「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究報告書」の中で行った。

名古屋大学第13代総長の平成27年度から松尾清一名古屋大学第14代総長へと引き継がれた。松尾清一総長は「名古屋大学松尾イニシアティブ　NU MIRAI 2020」を制定し、その中でも附属学校は大学のミッションに中に重要項目の１つとして明記された。「国立大学の附属学校としての機能の点検と推進、大学の発展への活用」である。附属学校に課せられた取組は①高大の接続の推進、個別選抜方法への改革と取組②先進的な中等教育プログラムの推進、長短期の留学生受入れ数拡大による中等教育のグローバル化の推進である。

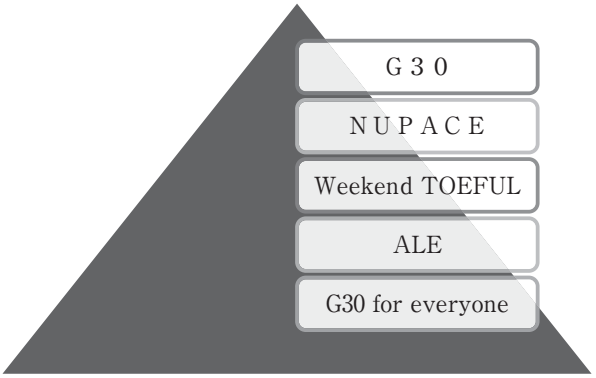
名古屋大学のスーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援　Aタイプ」構想調書においても、「今後留学生受入数の拡大と学生の質を確保するため海外リクルート組織をさらに強化し、海外指定校推薦制度や海外オフィスにおける公開講義、国内外の高校生サマーキャンプ（本学附属高校との連携）を実施する」、「本学附属高校と一体となり、外国人高校生や高校教師向けに短期プログラムを開催し志願者が進学大学を決定する前に本学の魅力、強みアピールできる機会をつくる。」など附属高校も一体となった形態での国際化が現在進行中である。

（２）名古屋大学と一体化した英語による コミュニケーション能力向上プログラム

本校SGHでは、ものごとの本質を地球規模で捉え、自分の力で探究し続ける勇気と判断力のある人間であり、本校はこれを魅力的なグローバル・リーダー像（本校では「自立した学習者」と呼ぶ）定義した。英語によるコミュニケーション能力を向上させることは、「自立した学習者」のとって欠かすことのできない力である。そのために、本校では、次に示す５つのステージを名古屋大学と一体となって実践している。

《レベル１　G30 for everyone》

名古屋大学が実施しているEnglish and Japanese Training Programs である。「Studium Generale」とい



うネーミングで春と秋の２回行われる。この中の「大学院講義の英語化に向けた英語力アップ講義 -英語による模擬講義体験-」に現在、本校生徒が参加し、院生・学生・大学職員とともに異年齢集団の中で、英語力アップに努めている。

規定数以上の講義に参加することで修了証が名古屋大学から発行される。

《レベル２　ALE（Active Learning in English）》

名古屋大学教員がリレー形式で講義を担当し、２時間連続の全10回シリーズで行われる。講義はすべて英語で行われ、ディスカッションやワークショップもすべて英語である。講義前には１時間チェックインとして、名古屋大学留学生（TA）と一緒に、「英語の頭」を作る。講義後は、フォローアップとして、講義の復習を、TAと一緒に行う。TAは講義中も教室で生徒の手助けをする。

《レベル３　Weekend TOEFL》

留学を希望している大学生を対象に行っているTOEFUL講座である。この講座は週末に行われ、本校生徒も大学生に交じり受講している。この講座に参加するためには、レベルチェック（スピーキング）を受ける必要があり、附属校生については、本レベルチェックの結果の上位２名までが受講することができる。

《レベル４　NUPACE（Nagoya University Program for Academic Exchange）》

名古屋大学は、学内で学ぶ短期留学生のために、各研究科、研究所、センター単位で、英語による授業群を開設している。これらの中から、高校生に適し、かつ受講が認められるものを選択し、高校生が受講できるようにしている。

《レベル５　G30》

名古屋大学には、G30による学部プログラム（自動車工学、生物系、科学系、物理系、国際社会科学、アジアの中の日本文化）と大学院プログラム（博士前期：自動車プログラム、土木系、物理数理系、化学系、生物系、経済ビジネス国際、比較言語文化、アジアの中の日本文化。博士後期：物理数理系、化学系、生物系、医学系、土木系）が存在し、すべて英語で授業が行われている。またこれには、一般教育科目arts & scienceと日本人学生が英語で受講できる科目も開設されている。これらの内、高校生の受講に適し、かつ受講が認められるものを選択し、高校生に受講させている。言うまでもなく、これらの講義レベルは非常に高いため、すべての高校生が参加する訳ではない。名古屋大学国際プログラムへ参加できる生徒は、英語運用能力だけではなく、コミュニケーション能力や英語で思考することができる生徒に限られている。しかしながら毎年数名の高校生が大学生に交じりこれらの講義を受講している。

（３）レベル１　G30 for everyone

上記５つのステージのうちで、本校生徒が数多く受講しているものがG30 for everyoneである。この講義は、附属高校生を始め、名古屋大学学生、名古屋大学教職員が参加することができる。内容は、大学で行われている英語の講義がどのようなものであるかを、様々な分野において、大学教員（ネイティブ、非ネイティブ、日本人）が分かりやすく英語で講義するものである。扱われるトピックは、心理学系、コンピュータ系、社会科学系、理数系と多岐にわたる。全14回行われるが、７回以上参加した場合は参加者に修了証書が発行される。講義時間は２時間である。講義自体は、講座によって教員が変わるアラカルト方式のものである。名古屋大学構内で行われるため、キャンパス内にある本校生徒は、通常授業や部活動が終わった後で参加することができる。年２回、春と秋に開催される。2015年度、Spring G30 for everyoneに本校生徒は10名が参加、Fall G30 for everyoneには18名の高校生が参加した。SpringとFallの両方に参加する生徒もいる。

（４）レベル１　G30 for everyone 参加生徒アンケート集計

《参加した理由》

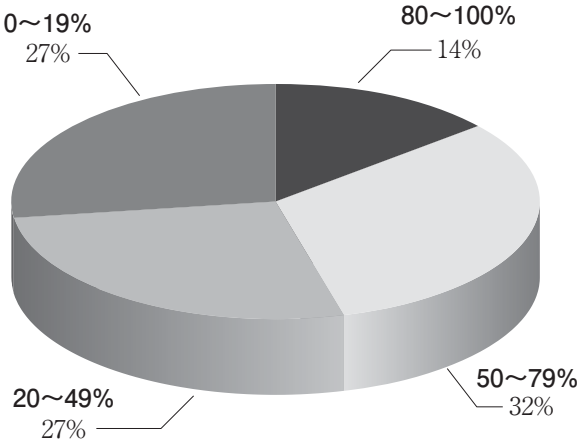
・英語だけで行われる授業を受けてみたかった
・自分がどのくらい、英語を聞き取ることができるが試してみたかった
・英語に触れる機会を増やし克ったから
・少しでも英語がよくわかるように自分自身がなりたかったから
・名大の授業を受けることができる上、生の英語の授業を聞くことができるチャンスだったから
・SGH海外研修に出かける前の事前準備として

《参加した感想》

・なかなか聞き取って、理解することがたいへんだった
・おおまかな内容は、なんとなく理解できた
・難しかったところもあるが、分かるところもあって楽しかった
・講義の内容や先生によって、分かりやすかったり、分かりにくかったりした
・英語の学習意欲の向上になった
・生の英語がたくさん聞けてよかったし、勉強になったはず

・いろいろな分野の話が聞けてよかった
・世の中にはいろいろな学問があると感じた

《講義内容の理解度》



講義内容の理解は50％以下しか理解できないと回答した生徒が半分以上はいたが、記述式のアンケート結果からもわかるように、大学教員から直接、英語で講義を受けることで生徒たちは多くの刺激を受けた。